

桃山学院中学校 プレテスト第一回 問題

国語

五十分・百五十点

注意事項

- 問題用紙は1ページから13ページまであります。
- 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入してください。
- 解答用紙の余白には何も記入しないでください。
- 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
「終了」の合図で筆記具を置き、監督の先生の指示に従ってください。

受験番号	名前
P	

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（字数制限がある

問いは、句読点とその他の記号も一字に数える）

（1）～（8）は段落番号

地に存在する大型・中型書店は、ますます閉店を余儀なくされるだろうと考えている。

① 街に本屋は必要か？ という問いを最近よく目にする。新聞記事やインターネット上の記事で。答えはどうだろうか。本を読む人は「必要」と答えるだろうし、本を読まない人は「不要」と回答するだろう。必要なに本屋がどんどんつぶれているのは、当然ながら A が多いからだ。私の肌感覚だと葉々社の近所で暮らしている人たちのなかで、日常的に本を読む習慣のある人は百人中、二、三人ではないかと思う。つまり、世の中を生きる人たちの大半は本を必要としていない。これは言い換えると本がなくとも生きていけるということだ。その一方で、本がなければ生きていけないという人たちもいる。葉々社を含めて、全国各地に点在する本屋の多くは、そういう人たちによつて支えられている。

② 每日本屋がつぶれていく現状に対しては、実際に本屋を運営していく思うが、「この粗利やとそらつぶれるわな」と感じている。とにかく店にお金が残らない。もちろん、数を売れば、手元に残るお金も相対的に増えるが、数がそれほど卖れないなか、従来の街の本屋がつぶれていくのはある意味で当たり前の話だ。薄利多売方式のビジネスモデルが崩壊している現在、何も手を打たなければ、これからも本屋はつぶれていく。特に駅前や商業ビルなど、立地条件のよい店になればなるほど賃料が高くなり、毎月のランニングコストを支払うだけで精いっぱいという状況に陥りかねない。私の想像だとこれから十年くらいのあいだにこのような好立

誌は週刊誌をはじめ、商品サイクルが短いため、毎週確実に売れていく数字が読めて、安定した収益につながつていたわけだが、現在はそうではない。書籍の売上減少とは比較にならないぐらい、右肩が下がり続けている。当然、本屋としての売上も下がる。売上の柱が雑誌中心だったこれまでの街の本屋は、今後も厳しい闘いが続くと推測する。とにかく粗利が低すぎるのだ。いつ売れるのかがわからない書籍だけを販売していたのでは、店を維持していくためのランニングコストすら稼げない。

③ インターネットの普及とともに始まつた雑誌の売上減少。雑誌は週刊誌をはじめ、商品サイクルが短いため、毎週確実に売れていく数字が読めて、安定した収益につながつていたわけだが、現在はそうではない。書籍の売上減少とは比較にならないぐらい、右肩が下がり続けている。当然、本屋としての売上も下がる。売上の柱が雑誌中心だったこれまでの街の本屋は、今後も厳しい闘いが続くと推測する。とにかく粗利が低すぎるのだ。いつ売れるのかがわからない書籍だけを販売していたのでは、店を維持していくためのランニングコストすら稼げない。

④ 本屋閉店のお知らせをSNSで見かけるたびに思う。「また、つぶれたか」と。その記事に対して、大手版元の公式アカウントなんかが「これまでたいへんお世話になりました。いままでたくさん本を売つていただきました」などのコメントをしていると、「相変わらず、香気なこと言うてはるわ」と怒りが湧く。このなかの人は、なぜ、その本屋がつぶれたのか、大手版元として何ができるとはなかつたのか、そういう④思いを馳せることはなかのだろうか。端的に言えば、川上に位置する大手版元が決めた掛け率の悪さが、ボディブローのようにじわじわと、その本屋の経営を圧迫していったのではないかと、私は思う。昔のように数が卖れないのだから、掛け率を改善しないと持続的な運営が難儀であることは誰の目にも明らかだ。そして、私はこうも思う。大手版元も本屋を作り、自社の社員をそこで働かせて、悪い掛け率で商売をした場合、どの程度の給料を社員に支払うことができるので、いちど実験してみたらいとい。おそらく、現在、支払つ

て いる よう な 給 料 は 用 意 で き な い は ず だ。 読 者 に も つ と も 近 い 位 置 に い る 本 屋 の 店 員 が な ぜ、 薄 給 な の か。 悪 い 掛 け 率 は な ぜ、 改 善 さ れ な い の か。 本 屋 が な く な れ ば な く な る ほ ど、 本 を 売 る 場 所 が 減 り、 読 者 と の 出 合 い の 場 も 消 滅 す る。 本 屋 の 減 少 が 最 終 的 に は 大 手 版 元 に も **B** 不 利 益 と な つ て 戻 つ て く る と 思 う の だ が、 改 な か で 働 い て い る 人 た ち は、 そ う 考 え て い な い の だ ろ う か。 本 屋 閉 店 が 他 人 事 で あ る か ぎ り、 状 況 は よ く な ら な い。

⑤ 私 は 当 然、 街 に 本 屋 は 必 要 だ と 思 っ て い る。 知 的 好 奇 心 を こ れ ほ ど ま で に 満 た し て く れ る 場 所 は ほ か に は な い。 東 京 駅 の 近 く に あ る 丸 善 丸 の 内 本 店 や 神 保 町 の 東 京 堂 書 店 な ん か は 最 高 に 楽 し い。 一 日 い て も 飽 き な い。 飽 き さ せ て く れ な い。 あ つ ち も こ つ ち も 読 み た い 本 が 次 々 に 見 つ か り 困 る。 自 宅 の 近 所 に 本 屋 が あ る の と な い の と て は 何 が 変 わ る か。 ⑤ 本 屋 は 本 を 売 る 場 所 だ が、 そ れ だ け で は な い。 私 が 小・中・高 校 生 の 頃 に 通 つ た よ う な 街 の 小 さ な 本 屋 は、 本 を 売 る こ と だ け を 商 売 に し て い た と 思 う が、 い ま、 全 国 各 地 で 多 発 的 に 増 え 続 け て い る、 独 立 系 書 店 の 多 く は、 本 と 人 を 結 び、 人 と 人 を つ な げ る 場 所 に な っ て い る。 地 域 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン を 担 う 中 繙 基 地 の よ う な 役 割 も 果 た し て い る。

⑥ 葉 々 社 に も 每 日 さ ま ざ ま な 属性 の お 客 さ ん が 来 店 す る。 職 業 も 年 齢 も 好 美 の 本 も み ん な バ ラ バ ラ。 共 通 し て い る の は 本 が 好 き と い う こ と。 ⑥ で も、 そ が い い。 派 手 な 原 色 だ け で は な く、 淡 い 色 や 薄 い 色 を 含 め て、 い ろ い ろ な 特 徴 を も つ お 客 さ ん が 出 た り 入 つ た り す る こ と が 本 屋 の 魅 力 だ と 感 じ て い る。 年 配 の お 客 さ ん だ と ア マ ゾ ン を 知 ら な い 人 も い る。 ク レ ジ ッ ツ カ ル ド を 持 つ て い な い 人 は、 ネ ッ ト シ ョ ッ ピ ピ ン グ も で き な い。 ⑥ 駅 の 蒲 田 ま で 行 け ば、 く ま ざ わ 書 店 と 有 隣 堂 が あ る け れ ど、 た つ た 一 駅 を 移 動 す

る の が 年 配 の 人 た ち に と つ て は ⑦ ハ ー ド ル が 高 い。 年 歳 を 重 ね て も 読 書 欲 が 旺 盛 で、 新 聞 の 切 り 抜 き や 書 名 を 記 し た メ モ を 手 に 来 店 さ れ る お 客 さ ん に は 頭 が 下 が る。

⑦ 社 会 に 出 る と、 仕 事 を 通 じ て、 人 と 出 会 う こ と が ほ と ん ど だ が、 本 屋 の 場 合 は 本 を 通 じ て、 人 と 人 と が 出 会 う。 た と え ば、 読 書 会。 葉 々 社 で は、 ふ た り の 常 連 が 立 ち 上 げ て く れ た 「 葉 々 社 ブ ッ ク ク ラ ブ 」 が あ る。 運 営 は 常 連 に 任 せ て い る た め、 私 が 何 か を 積 極 的 に 動 か す こ と は な い。 ⑥ 幅 広 い 年 代 の 人 た ち が 参 加 し て い る。 仕 事 か ら 離 れ た 場 所 で 本 の 話 を す る の は 簡 単 な よ う で な か な か 機 会 が な い。 私 も 会 社 員 時 代 は、 家 か 職 場 か 本 屋 か と い つ た 生 活 を 続 け て い た が、 本 の 話 を 気 軽 に で き る 場 を 見 つ け ら れ ず に い た。 そ う い う 意 味 に お い て も 街 の 本 屋 が そ こ に 存 在 す る 意 義 は あ る だ ろ う。

⑧ 街 の 本 屋 は、 ⑧ 徒 來 と は 異 な る 方 法 で 運 営 す る 必 要 が あ る。 本 以 外 の 商 品 (で き れ ば 粗 利 の い る も の を 探 し た い) を 販 售 し て も い い。 お 客 さ ん が 求 め る な ら 野 菜 で も 果 物 で も ⑨ ベ ー グ ル で も ド ー ナ ツ で も 何 だ つ て 売 れ ば い い と 思 う。 大 切 な こ と は 地 域 で 生 き る 本 好 き の 人 た ち の た め に、 で き る だ け 長 く 本 屋 を 続 け る こ と で あ り、 そ の た め に は 知 恵 を 出 し 続 け る こ と が 重 要 に な る。 街 に 根 付 く と い う こ と は、 そ の 店 が 店 主 だ け の も の で は な く、 街 を 生 き る 人 た ち の た め に 存 在 す る と い う こ と と 同 義 だ ろ う。 た だ、 ひ と り で て き る こ と に は 限 界 が あ る の で、 ⑨ 葉 々 社 に か か わ つ て く れ る お 客 さ ん の 力 を 大 い に 賴 り に し な が ら、 街 の 本 屋 と し て の 役 割 を 果 た し て い き た い。

* 問題作成の都合上、文章を改編した箇所があります。

問2 A にあてはまる言葉として最も適切なものを、①段落の文脈をふまえた上で後から選び、記号で答えなさい。

※ (注1) 葉々社^{おとす}・筆者が経営する書店の名。

(注2) 粗利^{そり}・売上から原価を引いた後に残る利益。

(注3) ランニングコスト^{ランニングコスト}・建物や設備を維持する費用。

(注4) 掛け率^{かけりつ}・ここでは、書店が商品を仕入れる時の金額が

商品の販売価格の何%であるかを示す割合のこと。

(注5) 独立系書店^{どくりつきしょてん}・個人や小規模な企業^{きぎょう}が運営する書店。

(注6) アマゾン^{アマゾン}・オンラインショッピングサイト。

(注7) 蒲田^{蒲田}・東京都にある町名。

(注8) オフライン^{オフライン}・インターネットにつながっていないこと。

(注9) ベーグル^{ベーグル}・ドーナツのような形をした、パンの一種。

問1 ① 「街に本屋は必要か?」とあるが、この問い合わせに対する筆者の回答について説明した次の文の□にあてはまる

言葉を、本文中から五字でぬき出しなさい。

※本屋に訪れる人の□^{おとす}を満たしてくれる場所は、他には見当たらないので、街に本屋は必要である。

問2 A にあてはまる言葉として最も適切なものを、①段落の文脈をふまえた上で後から選び、記号で答えなさい。

あ 必要不必要という視点からだけでは解決できない問題

い 必要不必要ということ以上にはるかに深刻な別の問題

う 必要と思っている人たちよりも不必要な人たちの割合

え 不必要と思っている人たちよりも必要な人たちの割合

問3 ② 「現在はそうではない」とあるが、現在はどうであ

ると筆者は述べているか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 街の本屋では書籍の売上よりも雑誌の売上の方が減少しており、毎週確実に売れるわけではない。

い 街の本屋では雑誌が売上の中になつており、書籍の売上減少はあまり問題ではない。

う 書籍の売上減少の影響^{えいきょう}で雑誌の売上が伸び悩んでおり、本屋の売上の中心は書籍に移っている。

え 書籍の売上減少以上に雑誌の売上が下がり続けており、本屋の安定した収益が失われている。

問4 — (3) 「本屋閉店」とあるが、筆者は本屋が閉店してなく

なるとどうなると述べているか。それについて説明した次の文の□にあてはまる言葉を、本文の④段落の中から二十四字でぬき出し、最初の七字を書きなさい。

※本屋が閉店してなくなると、□ことになる。

問5 — (4) 「思いを馳せる」、(7) 「ハードルが高い」の本文中

での意味として最も適切なものをそれぞれ後から選び、記号で答えなさい。

④「思いを馳せる」

あやまちを認める

こうだと仮定する

素直に謝罪する

想像をめぐらせる

問6 Bにあてはまる言葉として最も適切なものを後から選

び、記号で答えなさい。

あ
紙飛行機のよう
い
片道切符のよう

う
ブーメランのよう

え
打ち上げ花火のよう

問7 — (5) 「本屋は本を売る場所だが、それだけではない」と

あるが、本屋は本を売る以外にどういう場所であるのか。それについて説明した次の文のI・IIにあてはまる言葉を、()内の字数指定にしたがつて、本文の⑦段落の中からぬき出しなさい。

※本屋は、日常生活で I (十字) 場所であるとともに、
II (十四字) 機会を得られる場所でもある。

(7) 「ハードルが高い」
あ
不満が高まる
い
非常に困難である
う
費用がかかる
え
時間が必要である

問8 ——⑥「でも、それがいい」とあるが、筆者がこのように述べるのはなぜか。その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 本屋とは、さまざまな属性の多種多様なお客さんが集まる

ことに価値がある場所だと思うから。

い 本屋とは、派手な原色の服や、淡い色や薄い色の服を着ていてもよい場所だと思うから。

う 本屋とは、アマゾンを知らない人、ネットショッピングができる人でも安心できる場所だと思うから。

え 本屋とは、たとえ一駅の移動が難しくても、読書欲が旺盛な年配の人には近い場所になっていると思うから。

問9 ——⑧「従来とは異なる方法」とはどのような方法か。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

問11 次の①～④の各文について、本文の内容と照らしあわせて、正しければ「あ」を、間違つていれば「い」を書きなさい。

① 全国各地にある本屋は、本がなければ生きていけない人たちによって支えられており、日常的に本を読む人は年々増えている。

② 筆者は、読者にもっとも近い位置にいる本屋の店員の給料があまりにも少ないのを大手版元にも知つてもらい、ぜひ掛け率を改善してほしいと願つている。

③ 全国各地で増え続けている独立系書店は、本を売るだけではなく、地域のコミュニケーションを担う中継基地のような役割も果たしている。

④ 筆者は、本屋が街に根付くということは、その本屋が店主だけのものではなく、街に本屋を必要とする人たちのために存在することだと考えている。

あ 野菜や果物、ベーグルやドーナツなどの食料品を、書籍よ

りも多くのあつかう販売方法。

い 地域の本好きの人のために、新しい書籍の情報を積極的に

発信していく販売方法。

う お客さんが求めるものを何でも販売するといった、本屋を長く営むことをめざした経営方法。

え 街の本屋は店主だけのものではないので、お客さんと協力して売上を伸ばす経営方法。

問10 ——⑨「葉々社にかかわってくれるお客様の力」とあるが、本文で挙げられている、お客様の力が發揮された例はどんなことか。「運営」という言葉を必ず使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。

〔二〕次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。（字数制限がある
問い合わせは、句読点とその他の記号も一字に数える）

東京に暮らす小学六年生の長谷川十和は、祖母の住む大阪にある星蘭女学院中学校を第一希望として受験勉強にはげんでいる。夏休みも明けて、十和の勉強は徐々に熱を帯びるのであった。

勉強すればするほど、時間はいくらあつても足りないと突きつけられた。学校が再開してからはその思いがさらに強くなつた。今までの十和だったら、なんのかんの理由をつけて学校を休もうとしただろう。でも、不思議と^①そんな気持ちにはならなかつた。べつにいい子ちゃんを気取つてているつもりはないけれど、なんとなく自分が「ゾーン」のようなものに足を踏み入れているのは実感できた。

大人たちがしきりに「目標を持つことの大切さ」と唱えるのは、きっと^②こうのことなのだろう。

本来つらいはずの勉強が、あまりつらいと感じない。そもそも「つらい」と思うことの方が本質的じやないという気さえする。少なくとも、やらなきやいけない時期にやれなかつた頃の方が心はずつと苦しかつた。

残り四年分の星蘭の過去問をやる日を父と決めた。九月下旬に四年前、十月中旬に三年前、十一月は上旬と下旬にそれぞれ一年と去年の過去問をやり、空いている日は星蘭と傾向の似た他の中学の問題を父が用意してくれる。十二月に入つてからは繰り返し星蘭の過去問に取り組むことも決めた。

星蘭は九月の中旬に文化祭が開催される。前に父から「その時

期に息切れするタイミングが来ると思うから、気分転換も兼ねて一回は見にいこう」と言っていたし、おばあちゃんにも会いたかったから、十和もその日を楽しみにしていたが、その予定を土壇場で取りやめた。正直、いまは移動の時間だつて惜しい。【あ】「ごめん。もしあれならみんなで行つてきて。私は一人で平気だから。ホントにごめん」

その大阪行きを目前に控えたある日の夕食時、十和は素直に頭を下げた。いつかのキャンプのときは意味合いが違う。本当に申し訳なく思つていてるという旨を伝えると、真っ先に花奈が「やっぱりね」と母の方を向き、それを受けた母も「だから言つたでしよう？」と目を細くした。

父は一人だけ心配そうだ。

「いや、十和ちゃん。大阪に行かないのはべつにかまわないんだけど、さすがにちょっと根詰めすぎじゃない？ うまく息抜きしながらやもたないよ？ 受験までまだ長いよ？」

十和は思わず笑ってしまった。【い】

「それもわかつて。私もなんとなくいつか息切れするような気はしてるんだけど、いまは少しでも勉強してたい。その方が心が落ち着くの」

あらためて家族の顔を見回した。そして、もう一度^③素直な気持ちを口にした。

「いつか本当にパンクする日が来たら、そのときはまたみんなで支えてよ」

「支えるつて何をしたらいいの？ どうやつたらお姉ちゃんの力になれる？」と、花奈が身を乗り出して尋ねてくる。【う】

「いまみたいにみんなで笑つてくれてたらいい。それが一番救わ

れる

「えー、そんなのダメだよ。なんかもつと ^④花奈にできることない？」

「ううん。本当にそれで充分。^{じゅうぶん}もう花奈は力になつてくれてるよ」
十和は顔をほころばせたが、花奈はあきらかに不服そうで、母は呆れたとも、感心したともいえない表情で口をすばめている。

「とりあえずいまは自分の直感を信じてみる。行けるところまでは行つてみるから、ヤバくなつたらまたみんなでお願いします」

そんな自分の言葉を証明するように、十和はさらに気合を入れて勉強に取り組んだ。【え】

とくに花奈はなんとか十和の力になろうとしてくれた。

「いまのお姉ちゃん、すごくカッコいいよ。私、めちゃくちゃ憧^{あが}れる。大好きだよ、お姉ちゃん」

そんなカワイイことを口にした上で、花奈は「お姉ちゃんの受験が終わるまではお母さんたちの部屋で寝る」と言い出した。自分がいると勉強の邪魔^{じゃま}になるというのである。

動かしていたシャーペンを止め、十和は振り返った。いつにく真剣^{しんけん}な目で花奈がじつとこちらを見ている。

「なんでそんなこと言うの？ え、寝にくい？ 私、邪魔？」と、十和はわざとおどけた調子で質問した。

花奈はぶんぶんと首を振った。

「違うよ。私が邪魔なんじゃないかつて」
「全然邪魔じゃないよ。むしろ助かってる。花奈の寝息^{ねいき}を聞きながら勉強してると落ち着くんだよね」
「そんなのウソだよ」

「ホントだよ。なんか一人じゃないって思えるつていうか。おか

げで全然さみしくない。だから部屋を替えるとか言わないでよ」

そう微笑みながらも、十和は胸が締めつけられた。もし……、本当に万が一これから順調に成績が伸びていって、自分の望む未来が拓けるのだとしたら、花奈と一緒に過ごせなくなるのだ。二人が同じ部屋で過ごせる時間はあとわずかしかない。

花奈もきつと同じことを感じ取つたのだろう。

⑤「お姉ちゃん、大好きだよ」と小さな声で繰り返して、懸命に涙^{なみだ}を拭^{ぬぐ}いながら十和にしなだれかかってきた。

父に与えられたノルマをこなすように、十和は肅々^{注2}と勉強を続けた。

基本的には夏休みに近いスケジュールではあつたものの、^⑥家で取り組む科目に多少の変更^{へんこう}があつた。

具体的には算数の時間が少し削られて、国語対策に時間が割かれるようになつたのだ。

「国語^{じゅくご}つてセンスで解くものと思われすぎなところがあるけどさ。いや、僕もそう思つていたんだけど、とくに星蘭は対策する価値のある問題を出してくる。やっぱり十和ちゃんの得点源になると

思う」

父はどこでそういういた情報を得ているのだろう。十和も時間があれば星蘭受験を経験したどこかの親のブログや、掲示板^{けいじばん}の書き込みなんかを見ているけれど、父の得る情報はもつとの確で、実践的^{せんせんてき}だ。

父は十和に^⑦古いエッセイと詩を読むことも提案してきた。

「最初は頭に入らなくともいい。読みにくい文体かもしれないけど、その一文、その一ブロックで筆者が何を読者に伝えようとしているのか」

て いる の か。意 識 し な が ら 読 ん で み て

「そ れ は い い ん だ け ど、なん の 本 を 読 ん だ ら い い ？」

「そ れ は 僕 が 図 書 館 で ち ゃ ん と 選 ん で 借 り て く る。学 校 の 休 み 時 间 で も い い し、塾 の 空 き 時 间 で も、家 で の ち ょ つ と し た 時 间 で も い い。あ ま り 長 い 本 は 借 り て こ な い よ う に す る か ら、可 能 な 限 り、一 週 间 で 読 ん で き る よ う に す る か ら い い 」

現 状 で も す べ て に 空 き 時 间 な ど な い ほ ど ス ケ ジ ュ ー ル が 組 ま れ て い う。そ の こ と に 対 す る 不 安 は あ つ た し、は じ め は 父 の 借 り て く る ど の 本 も 読 ん で く く て、頭 に 入 っ て こ な か つ た。

そ れ で も な ん と か 三 冊 ほ ど 読 ん で き つ た 頃 か ら、古 い 本 に 目 を 通 す こ と が そ れ ほ ど 苦 じ や な く な つ た。

ま だ こ ん な に 日 常 の 中 に 余 白 が あ つ た の か と 思 う ほ ど、氣 づ い た と き に は 本 を 読 ん で き が 生 活 の リ ブ ム に な つ て い う。そ れ ど こ ろ か 貴 重 な 息 抜 き の 時 间 と し て 機 能 し 始 め た。

「私、この 人の 文 章 好 き か も 」

父 に 何 冊 目 か の 本 を 返 す と き、ポ ツ リ と 言 つ た こ と が あ る。父 は 意 外 そ う に し た が、す ぐ に ⑧ 合 点 が い つ た よ う に う な ず い た。
「う ん、い い よ ね。僕 も 好 き だ よ。こ の 人 は も も と テ レ ビ ド ラ マ の 脚 本 で 有 名 に な つ た 人 な ん だ け ど、小 説 も 書 い た し、こ う し た 素 晴 ら し い 随 筆 も た く さ ん 残 し て い う。多 才 な 人 だ つ た ん だ ろ う ね」

「ふ ー ん。そ う な ん だ」と や や い た 十 和 を や や し く 見 つ め、父 は 言 葉 を 連 ね た。

「十 和 ち ゃ ん、合 つ て る も も し れ な い ん 」

「何 が ？」

「将 来、文 章 を 書 く 仕 事 が 合 つ て る も も し れ な い よ。君 に は お 母

さ ん に 似 て 周 围 を 觀 察 す る 目 が あ る し、お 母 さ ん に は な い、も ち ろん 僕 に も な い 繖 細 さ が あ る。十 和 ち ゃ ん、ま わ り の 目 が 気 に な つ て 仕 方 が な い で し ょ う？」

「そ れ は、ま あ」

「友 だ ち も み ま な そ う だ と 思 つ て る も も し れ な い け ど、意 外 と そ ん な こ と な い よ。そ し て 十 和 ち ゃ ん が し ん ど い と 思 つ て い る、悪 く 言 え ば そ の 自 意 識 過 剩 な と こ ろ は、物 書 き と い う 仕 事 に は 必 要 な 特 性 じ ゃ な い か と 僕 は 思 う」

父 は め ず ら し く キ ツ パ リ と し た □ 調 で 続 け た。

「こ の エ ツ セ イ を 書 い た 人 だ つ て、絶 対 に 神 経 過 敏 だ つ た は づ だ。じ ゃ な き や、こ ん な 繖 細 な 文 章 を 書 け る は づ が な い。十 和 ち ゃ ん

が 書 い た 長 い 文 章 を、い つ か 僕 は 読 ん で み た い ん」

そ な な 父 の 声 を 聞 き 流 し な が ら、十 和 は 手 に 持 つ た 本 の 表 紙 を じ つ と 見 つ め た。

文 章 を 書 く 仕 事 な ん て 考 え た こ と も な か つ た け れ ど、星 蘭 と 出 会 つ た 日 と 同 じ よ う に 温 か い 气 持 ち が 胸 の 中 に 広 が つ た。

（早 見 和 真 『問 題』以下 の 文 章 を 読 ん で、

家 族 の 幸 せ の 形 を 答 え な き い』）

※（注 1）ゾーン＝集中しきつて感覚がとぎすまされた状態。

（注 2）肅々と＝集中して着実に。

問1 —— ① 「そんな気持ち」とはどのような気持ちか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ ういた時間を勉強にあてるために、理由をつけて学校を休もうとする気持ち。

い 勉強時間を充実させるには、学校で積極的に学ばなければならぬという気持ち。

う 勉強すればするほど時間が足りないよう感じ、学校が再開後は特にあせる気持ち。

え 学校が再開されたことで、勉強時間がいくらあっても足りないと不安がつのる気持ち。

問2 —— ② 「こういうこと」とあるが、どういうことか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 本来つらいはずの勉強があまりつらく感じなくなると、具体的な目標がみつかるということ。

い 目標を持つことによって、目標のないときは比べようがないほど集中力が高まるということ。

う 目標を持つことによって、それまで好きでなかつた学校がいきなり好きになれるということ。

え 目標を持つことによって、そのつもりがなくとも自然にいい子ちゃんになっていくということ。

問3 本文から、次の文がぬけている。本文中にある【あ】もどで答えなさい。

それに応えるように、家族もみんな本当に協力的だつた。

問4 —— ③ 「素直な気持ち」とあるが、十和の素直な気持ちとして最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 受験勉強はつらく苦しいときでも、いつでも笑顔ですごしてみたい。

い 受験勉強でつかれたときは、息抜きに笑顔になれるような時間を作りたい。

う 受験勉強に嫌気がさしたときは、家族みんなと笑い合って気分転換したい。

え 受験勉強が限界になつたときは、家族みんなに笑顔で寄りそつていてほしい。

問5 —— ④ 「花奈にできること」とあるが、十和の受験勉強に協力するために、花奈は具体的にはどのようなことを提案したのか。次の文の□にあてはまる言葉を、本文中から二十一字でぬき出し、最初の五字を書きなさい。

※十和の□こと。

問6

——⑤「『お姉ちゃん、……かかつてきた』とあるが、このときの様子から十和が感じ取ったのは、花奈のどのような気持ちか。最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 十和の受験に協力したいが何をすればよいかよくわからず、力になれないことがふがいない気持ち。
い 十和の受験は花奈との共同作業でもあることに気づき、姉のことを精一杯応援しようとする気持ち。

う 十和の受験がうまくいけば、同じ部屋で一緒に過ごせるのはあとわずかであることを悲しむ気持ち。

え 十和の受験勉強の邪魔になつていると感じているが、素直に謝ることができないことを恥じる気持ち。

問7

——⑥「家で取り組む科目に多少の変更があつた」とあるが、その理由として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ

算数はあまり十和の得点源にできそくになく、むしろ国語対策に重点を置いて国語で点を取ることを考えた方が、合格の可能性が上がりそうだと考えられたから。

い 国語の問題はセンスによって解くものだと考えていたが、父が得た情報から、星蘭の入試では国語の問題も対策次第で十分に得点源にできると判断されたから。

う 十和には国語のセンスがないため、国語で点をとることは早々にあきらめているが、実際は対策さえすればセンスがなくとも解けるレベルの出題だとわかったから。

問8

——⑦「古いエッセイと詩を読むこと」とあるが、父から提案された読書は十和にとつてどのようなものであつたか。あてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

あ はじめのうちは、父からすすめられる本の内容がよく理解できなかつた。

い 古い本を読むことはいつまでたつても苦痛だったが、受験のためとこらえて読み続けた。

う 受験勉強で毎日いそがしかつたが、本を読むための時間を確保することはできた。

え 読んだ本の中で、十和が気に入るような文章を書く作家が見つかることがあつた。

問9

——⑧「合点がいったように」の意味として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ 納得したように

い あいづちを打つように

う 非常に満足したように

え 半信半疑のよう

問10

本文中で描かれている十和の父の人物像の説明として最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

あ

十和の受験に家族のだれよりも真剣に取り組んでおり、きちんと計画を立てて厳しくやりとげさせようとする、教育熱心な人物。

い

十和の願いなのでしぶしぶ受験には協力しているが、できれば息抜きをしながらうまくやつてほしいと願う、心配性の人物。

う

十和の気持ちに敏感で、本人が希望や期待を口に出す前に見抜いて常にはつきりとした言動で感覚的な助力ができる、たよりになる人物。

え

十和の受験で有能さを發揮しているが、基本的には父親として娘を案じたり将来に思いをはせたりする、子ども思いの人物。

問11

あるクラスで、国語の時間に本文の内容について話し合つた。次に示すのは、本文に登場する「十和」と彼女の家族たちについて話し合っている生徒たちの様子である。本文の内容をふまえて、X・Y・Zにあてはまる言葉を、X・Yはそれぞの（ ）内の字数指定にしたがつて本文中からぬき出し、Zは後から選び、記号で答えなさい。

Aさん

十和が大阪行きをあきらめた場面に「いつかのキャンプのときは意味合いが違う」とあつたね。十和が土壇場でやめたことは、大阪行きの前にもあつたのかな。「意味合いが違う」とはどういうことだろう。

Bさん

今回は時間が惜しいという十和の勝手な理由で行かないことにしたので、「X（十三字）」という気持ちで素直に謝ったんだよ。

Bさん

面白いのは、花奈とお母さんがこうなると予想していたことだね。お父さんは、十和のことをちゃんと理解していたのかな。

Cさん

もちろんそうだよ。十和の家族は、十和のことをよく思いやっているよね。お父さんも十和のために受験に協力し、本の話をしているときには十和をやさしく見つめながら、十和が書いた文章をY（十二字）と言っているんだよね。

Aさん

お父さんの言葉を聞き流していた十和だけど、私は最後の一文から、十和がZように感じたよ。

あい

今後もこの著者の本を愛読していきたいと思っているこの本を書いた著者の先生に会つてみたいと考えている文章を書く仕事に対して前向きな印象を抱いている

え

何が何でも文章を書く仕事につかなければと思つてている

三 次の各問い合わせに答えなさい。

問1 次の一線部のカタカナを漢字に直して書き、漢字は読みをひらがなで書いて答えなさい。

- ① 旅行で自宅をルスにする。
② 日本の要人をゴエイする。
③ 足首に包帯をマく。
④ 様々なものが混在する。
⑤ 汽笛を鳴らす。
⑥ 額のあせをぬぐう。

- ① 美点
② 許可
③ 勝利
④ 需要
↓ ↓ ↓ ↓
□ □ □ □ 点

問2 次の各語が対義語（意味が反対の言葉）の組み合わせになるように、□に入る漢字一字を書きなさい。

- ① □をこまねく
② 二の□をふむ

あ うまく処理できずにあきらめることのたとえ。

い まちがいやあやまちをくり返してしまうことのたとえ。

う 始めかけた物事をためらってしまうことのたとえ。

え 何もしないでただ見ているだけでいることのたとえ。

お 気心があわずに関係がうまくいかないことのたとえ。

か 言いにくいことでもはつきり言うことのたとえ。

問2 次の①～⑤の四字熟語の中で、誤った字をふくむものの組み合わせとして適切なものを後から一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 温古知新
② 広大無辺
③ 自画自賛
④ 公明正大
⑤ 短刀直入

- え あ ①と②
④と⑤
お い ②と③
①と⑤
か う ③と④
②と④

四 次の各問い合わせに答えなさい。

問1 □にあてはまる体の一部を表す漢字を書き、語句を完成させなさい。また、その意味を後から選び、記号で答えなさい。

問3 次の各文中の□にあてはまる言葉を後から選び、記号で答えなさい。

① 大会に向けて必死に練習した。□、決勝戦でおしくもやぶれた。

② 今日は日曜だが家にいようと思う。□、かぜを引いたからだ。

③ 昨日、私がいつしょに美術館へ行つたのは、私の父の兄、□おじにあたる人だ。

④ 新しい部屋の壁紙は白、□薄茶色にしようと考えている。

あ だから い しかし う つまり
え なぜなら お あるいは

問4 次の①～⑤の各文について、文法や言葉の使い方が正しければ「あ」を、間違つていれば「い」を書きなさい。

- ① 長年行つてきた活動がいよいよ実を結ぶ。
② 兄は明日の試合に絶対出場するかもしれない。
③ 何度も注意しても響かないならぬかにくぎだよ。
④ 彼はその質問にゆっくりと間髪をいれずに答えた。
⑤ この本からの学びは、友情は大切だと思った。

以上で問題は終わりです。



202610010

桃山学院中学校 プレテスト第一回
国語 解答用紙

二〇二六年度 入試向け

問 11	問 10			問 8	問 7		問 5	問 3	問 1
①					II	I	④		
②				問 9				問 4	
③								問 6	問 2
④									
	40	30							

受験番号					名前
P					
	0	0	0	0	
	1	1	1	1	
	2	2	2	2	
	3	3	3	3	
	4	4	4	4	
	5	5	5	5	
	6	6	6	6	
	7	7	7	7	
	8	8	8	8	
	9	9	9	9	

2026年度 入試向け
桃山学院中学校 プレテスト第1回 問題

算 数

【50分・150点】

注 意 事 項

- 1 問題は1ページから5ページまであります。
- 2 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 3 円周率は、3.14とします。
- 4 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
- 5 受験番号と名前を解答用紙と問題用紙に正しく記入しなさい。
- 6 計算機能付き腕時計・携帯電話は使用禁止です。
- 7 「終了」の合図で鉛筆を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

受 験 番 号	名 前
P	

1 次の□にあてはまる数を答えなさい。

(1) $217 - (36 + 167) \times 17 \div 29 = \boxed{\quad}$

(2) $887 \times 9 - 197 \times 18 + 169 \times 27 = \boxed{\quad}$

(3) $\left(0.1 \div \boxed{\quad} - \frac{2}{3}\right) \times 4.5 = \frac{6}{7}$

(4) $(12\text{時間}34\text{分}50\text{秒}) \div 7 = \boxed{\quad}\text{時間}\boxed{\quad}\text{分}\boxed{\quad}\text{秒}$

2 次の問いに答えなさい。

(1) 兄が 1300 円、弟が 500 円のお金を持っています。お父さんから同じ金額をもらったので、兄の持っているお金が弟の持っているお金の 2 倍になりました。2 人がお父さんからもらった金額は何円ずつですか。

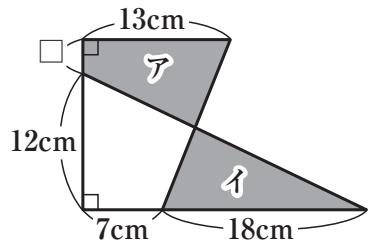
(2) 20 人のクラスでソフトボール投げの記録をとったところ、上位 12 人の記録の平均は 25m、下位 8 人の記録の平均は 15m でした。このクラス全体の記録の平均は何 m ですか。

(3) 1750 円で仕入れた品物に仕入れ値の 60% の利益を見込んで定価をつけ、定価の 25% 引きで売りました。利益は何円ですか。

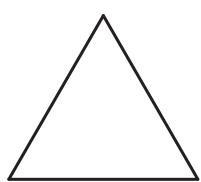
(4) 兄が分速 70m の速さで歩いて家を出発してから、15 分後に弟が家を出発して自転車に乗って分速 210m で追いかけました。弟が兄に追いつくのは家から何 m の地点ですか。

(5) $\boxed{0}, \boxed{1}, \boxed{2}, \boxed{2}, \boxed{3}$ の 5 枚の数字のカードのうち、3 枚を使って 3 けたの整数をつくるとき、200 より大きい数は何通りできますか。

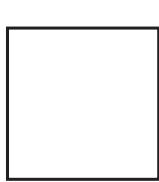
(6) 右の図は、台形と三角形を組み合わせたものです。アとイの部分の面積が等しいとき、□の長さは何 cm ですか。



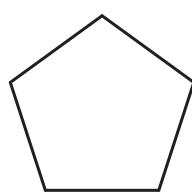
3 次のように正多角形を順にならべていきます。このとき、次の問い合わせに答えなさい。



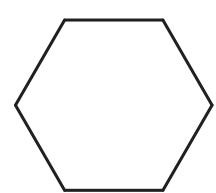
1番目



2番目



3番目



4番目

.....

- (1) 5番目の正多角形の対角線の本数は何本ですか。
- (2) 1番目から10番目までの正多角形の内側の角の大きさをすべてたすと何度ですか。
- (3) 内側の角1つの大きさが整数になる正多角形は何個ありますか。

4 太郎さんは文房具店へ行き、ボールペン 16 本とえん筆 6 本を持っているお金でちょうど買うつもりでしたが、ボールペン 6 本とえん筆 22 本でもちょうど買えることに気づきました。このとき、次の問い合わせに答えなさい。

- (1) ボールペン 5 本分と同じ金額になるのは、えん筆何本分ですか。
- (2) 持っているお金ちょうど買える買い方で、ボールペンとえん筆を合わせた本数をもっと多くするには、それぞれ何本ずつ買えばよいですか。
- (3) 持っているお金でボールペンだけを 21 本買おうとすると 200 円不足するそうです。太郎さんが持っていたお金は何円ですか。

5 1 から N までの整数をすべてかける計算 $1 \times 2 \times 3 \times \dots \times N$ の答えを 【N】 とします。たとえば、 $1 \times 2 \times 3 = 6$ なので 【3】 = 6 です。このとき、次の問い合わせに答えなさい。

(1) 【20】 ÷ 【18】 を計算した答えはいくつですか。

(2) 【30】 は一の位から 0 が何個続きますか。

(3) 【125】 ÷ 【X】 を計算した答えの一の位から 0 が 10 個続くとき、考えられる X でもっとも大きい数はいくつですか。

6 水が入る容器と、容器に水を入れる 2 本の管 A, B があります。空の容器に水を入れていっぱいにするのに、A だけを使うと 60 分かかり、B だけを使うと 48 分かかります。また、容器に水が 30L 入った状態から A と B を同時に使って水を入れると、いっぱいになるのに 20 分かかります。このとき、次の問い合わせに答えなさい。

- (1) 空の容器に A と B を同時に使って水を入れると、いっぱいになるのに何分何秒かかりますか。
- (2) 容器の容積は何 L ですか。
- (3) 容器に水が 50L 入った状態から、A だけと B だけを合わせて 32 分使って水を入れるといっぱいになりました。A だけを使った時間は何分ですか。

以上で問題は終わりです。



202610030

2026年度 入試向け



受験番号					名前
P					
	0	0	0	0	
	1	1	1	1	
	2	2	2	2	
	3	3	3	3	
	4	4	4	4	
	5	5	5	5	
	6	6	6	6	
	7	7	7	7	
	8	8	8	8	
	9	9	9	9	

桃山学院中学校 プレテスト第1回

算数 解答用紙

1	(1)	(2)	(3)	(4)	時間	分	秒
---	-----	-----	-----	-----	----	---	---

2	(1)	円	(2)	m
	(3)	円	(4)	m
	(5)	通り	(6)	cm

3	(1)	本	(2)	度
	(3)	個		

4	(1)	本分	(2)	ボールペン	本, えん筆	本
	(3)	円				

5	(1)	(2)	個
	(3)		

6	(1)	分	秒	(2)	L
	(3)		分		

合計

2026年度 入試向け

桃山学院中学校 プレテスト第1回

解答と配点

目 次

解 答

1 国 語 (50分・150点) P. 1

2 算 数 (50分・150点) P. 1

配 点 P. 2

解 答

国 語

- 一 問1 知的好奇心 問2 う 問3 え 問4 本を売る場所が
問5 ④ え ⑦ い 問6 う
問7 I 本の話を気軽にできる II 本を通じて、人と人とが出会う
問8 あ 問9 う
問10 (例) 常連のお客さんが、読書会の「葉々社ブッククラブ」を立ち上げて運営
していること。[39字]
問11 ① い ② あ ③ あ ④ あ
- 二 問1 あ 問2 い 問3 え 問4 え 問5 受験が終わ
問6 う 問7 い 問8 い 問9 あ 問10 え
問11 X 本当に申し訳なく思っている Y いつか僕は読んでみたいな
Z う
- 三 問1 ① 留守 ② 護衛 ③ 卷(く)
④ こんざい ⑤ きてき ⑥ ひたい
問2 ① 欠(汚・弱) ② 禁 ③ 敗 ④ 供
- 四 問1 ① 手(腕)・え ② 足・う 問2 お
問3 ① い ② え ③ う ④ お
問4 ① あ ② い ③ あ ④ い ⑤ い

算 数

- 1 (1) 98 (2) 9000 (3) $\frac{7}{60}$ (4) 1時間47分50秒
2 (1) 300円 (2) 21m (3) 350円 (4) 1575m
(5) 19通り (6) 3cm
3 (1) 14本 (2) 9900度 (3) 22個
4 (1) 8本分 (2) ボールペン 1本, えん筆 30本 (3) 3160円
5 (1) 380 (2) 7個 (3) 94
6 (1) 26分40秒 (2) 120L (3) 20分

配点

国語

一	問 1…4 点	問 2…2 点	問 3…4 点
	問 4…4 点	問 5…各 4 点	問 6…2 点
	問 7…各 4 点	問 8…4 点	問 9…4 点
	問 10…10 点	問 11…各 2 点	合計 58 点
二	問 1…4 点	問 2…4 点	問 3…2 点
	問 4…4 点	問 5…4 点	問 6…4 点
	問 7…4 点	問 8…4 点	問 9…2 点
	問 10…4 点	問 11…各 4 点	合計 48 点
三	各 2 点		合計 20 点
四	各 2 点 (問 1 各完答)		合計 24 点

算数

1	各 8 点	合計 32 点
2	各 8 点	合計 48 点
3	(1)(2)各 5 点 (3)6 点	合計 16 点
4	各 6 点	合計 18 点
5	各 6 点	合計 18 点
6	各 6 点	合計 18 点

2026年度入試向け プレテスト第1回

解説

1 計算問題

$$(1) 217 - (36 + 167) \times 17 \div 29 = 217 - 203 \div 29 \times 17 = 217 - 7 \times 17 = 217 - 119 = 98$$

$$(2) 887 \times 9 - 197 \times 18 + 169 \times 27 = 887 \times 9 - 197 \times 2 \times 9 + 169 \times 3 \times 9$$

$$= 887 \times 9 - 394 \times 9 + 507 \times 9 = (887 - 394 + 507) \times 9 = 1000 \times 9 = 9000$$

$$(3) 0.1 \div \boxed{\quad} - \frac{2}{3} = \frac{6}{7} \div 4.5 = \frac{4}{21} \quad 0.1 \div \boxed{\quad} = \frac{4}{21} + \frac{2}{3} = \frac{6}{7} \quad \boxed{\quad} = 0.1 \div \frac{6}{7} = \frac{7}{60}$$

$$(4) 12\text{時間} \div 7 = 1\text{時間あまり} 5\text{時間} \quad 5\text{時間} 34\text{分} \div 7 = 334\text{分} \div 7 = 47\text{分あまり} 5\text{分}$$

$$5\text{分} 50\text{秒} \div 7 = 350\text{秒} \div 7 = 50\text{秒} \quad \text{よって, } 1\text{時間} 47\text{分} 50\text{秒}$$

2 小問集合

(1) $1300 - 500 = 800$ (円)が弟の, $2 - 1 = 1$ (倍) 弟は, $800 \div 1 = 800$ (円)になったからもらった金額は, $800 - 500 = 300$ (円)

(2) 上位 12 人の合計は, $25 \times 12 = 300$ (m) 下位 8 人の合計は, $15 \times 8 = 120$ (m) 全体の合計は, $300 + 120 = 420$ (m) クラス全体 20 人の平均は, $420 \div 20 = 21$ (m)

(3) 定価は, $1750 \times (1 + 0.6) = 2800$ (円) 売り値は, $2800 \times (1 - 0.25) = 2100$ (円)
利益は, $2100 - 1750 = 350$ (円)

(4) 兄が 15 分間に進んだ道のりは, $70 \times 15 = 1050$ (m)

兄と弟は 1 分間に $210 - 70 = 140$ (m) 差が縮まるから, 弟が出発後 $1050 \div 140 = 7.5$ (分) で追いつく。よって, $210 \times 7.5 = 1575$ (m)

(5) 百の位が 2 のとき, 残った $\boxed{0}$, $\boxed{1}$, $\boxed{2}$, $\boxed{3}$ で十の位と一の位につくれる数は, $4 \times 3 = 12$ (通り)

百の位が 3 のとき, 残った $\boxed{0}$, $\boxed{1}$, $\boxed{2}$, $\boxed{2}$ で十の位と一の位につくれる数のうち $\boxed{2}$ を 1 枚以下でつくれる数は, $3 \times 2 = 6$ (通り), $\boxed{2}$ を 2 枚使ってつくれる数は 1 通り。
 $12 + 6 + 1 = 19$ (通り)

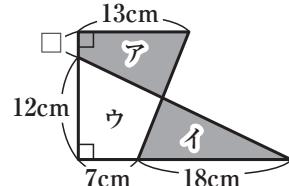
(6) 右の図のように, 台形と三角形が重なった部分をウとすると,

アとイの面積が等しいことから, アとウを合わせた台形の面積と, イとウを合わせた三角形の面積が等しくなる。

イとウを合わせた三角形の面積は, $(7 + 18) \times 12 \div 2 = 150$ (cm²)

アとウを合わせた台形の面積は, $(13 + 7) \times (\square + 12) \div 2 = (\square + 12) \times 10$

$(\square + 12) \times 10 = 150$, $\square + 12 = 150 \div 10$, $\square + 12 = 15$, $\square = 15 - 12 = 3$ だから, 3cm

**3 正多角形**

(1) 5 番目の正多角形は, $3 + (5 - 1) = 7$ より正七角形

1 つの頂点から, $7 - 3 = 4$ (本) ずつを 7 個の頂点から, $4 \times 7 = 28$ (本) ひけるが 1 本につき 2 回ずつ数えているので, $28 \div 2 = 14$ (本)

(2) 1 番目の正三角形の内側の角の和が 180 度, 2 番目の正方形の内側の角の和が 360 度,

3番目の正五角形の内側の角の和が540度, …と180度ずつ増えて10番目の内側の角の和は,
 $180 + 180 \times (10 - 1) = 1800$ (度)

すべてたとえ, $180 + 360 + 540 + \cdots + 1800 = (180 + 1800) \times 10 \div 2 = 9900$ (度)

(3) 内側の角1つが整数になるのは外側の角1つが整数になるときで, 外側の角の和360度を整数の範囲でわり切ることができると360の約数24個のうち1と2を除いた, $24 - 2 = 22$ (個)

4 消去算

(1) ボールペンを $\boxed{ボ}$, えん筆を $\circled{え}$ とすると, $\boxed{ボ} \times 16 + \circled{え} \times 6 = \boxed{ボ} \times 6 + \circled{え} \times 22$

$$\boxed{ボ} \times 10 = \circled{え} \times 16, \quad \boxed{ボ} \times 5 = \circled{え} \times 8$$

よって, ボールペン5本分とえん筆8本分は同じ金額になる。

(2) (1)より, えん筆の方が安いので, えん筆を多く買えばよいから, $\boxed{ボ} \times 16 + \circled{え} \times 6$ のうち, $\boxed{ボ} \times 15$ をえん筆にかえると,

$$\boxed{ボ} \times 16 + \circled{え} \times 6 = \boxed{ボ} \times 1 + \boxed{ボ} \times 15 + \circled{え} \times 6 = \boxed{ボ} \times 1 + \circled{え} \times 24 + \circled{え} \times 6 = \boxed{ボ} \times 1 + \circled{え} \times 30$$

よって, ボールペン1本, えん筆30本

(3) $\boxed{ボ} \times 21 = \boxed{ボ} \times 16 + \circled{え} \times 6 + 200$, $\boxed{ボ} \times 5 = \circled{え} \times 6 + 200$, $\circled{え} \times 8 = \circled{え} \times 6 + 200$,

$\circled{え} \times 2 = 200$ よって, えん筆1本は, $200 \div 2 = 100$ (円)

ボールペン1本は, $100 \times 8 \div 5 = 160$ (円)

したがって, 持っていたお金は, $160 \times 16 + 100 \times 6 = 3160$ (円)

5 数の性質

$$(1) [20] \div [18] = \frac{1 \times 2 \times 3 \times \cdots \times 18 \times 19 \times 20}{1 \times 2 \times 3 \times \cdots \times 18} = 19 \times 20 = 380$$

(2) 一の位から続く0の個数は, その数を10でわり切ることのできる回数と等しく, 10は2と5の積である。[30]は5で, $30 \div 5 = 6$ (回), さらに, $30 \div 25 = 1$ あまり5で1回, 合わせて, $6 + 1 = 7$ (回)わり切れ, 2でわり切れる回数はこれより多いから, 10で7回わり切れる。よって, 7個

(3) $125 \div 5 = 25$, $25 \div 5 = 5$, $5 \div 5 = 1$ より [125]は10で, $25 + 5 + 1 = 31$ (回)わり切れるから, [X]は10で, $31 - 10 = 21$ (回)わり切れる。[X]は, 10で12回わり切れる [50]より, $21 - 12 = 9$ (回)多くわり切れ, 75は5で2回わり切れるから, $50 + 5 \times (9 - 1) = 90$ より [90]から [94]は10で21回わり切れ, [95]は10で22回わり切れる。よって, 94

6 割合と仕事の文章題

(1) 容器を基準としたときのそれぞれの管から1分間に入る水の量はAが $\frac{1}{60}$, Bが $\frac{1}{48}$,

同時に使うと, $\frac{1}{60} + \frac{1}{48} = \frac{3}{80}$ かかる時間は, $1 \div \frac{3}{80} = \frac{80}{3} = 26\frac{2}{3}$ (分) $\frac{2}{3}$ 分は, $60 \times \frac{2}{3} = 40$ (秒)
よって, 26分40秒

(2) 30Lは容器の, $1 - \frac{3}{80} \times 20 = \frac{1}{4}$ 容積は, $30 \div \frac{1}{4} = 120$ (L)

(3) Aは毎分, $120 \div 60 = 2$ (L), Bは毎分, $120 \div 48 = 2.5$ (L)で合わせて32分で $120 - 50 = 70$ (L)

入れる。32分すべてBだけで入れると, $2.5 \times 32 = 80$ (L)

よって, Aだけを使った時間は, $(80 - 70) \div (2.5 - 2) = 20$ (分)

二 説明的文章

- 問1 空欄にあてはまる語を本文中から探す問題です。①段落では、「本を読む人は『必要』と答えるだろうし、本を読まない人は『不必要』と回答するだろう」とあるだけで、筆者自身がどのように考えているかについては、まだ述べられていません。読み進めていくと、⑤段落の初めて「私は当然、街に本屋は必要だと思っている」と筆者自身の回答が述べられており、その直後の「^{こうきしん}知的好奇心をこれほどまでに満たしてくれる場所はほかにはない」がその理由になっています。「満たしてくれる場所」という空欄後にある言葉がここで出てきています。何を「満たしてくれる」のかを確かめると、「知的好奇心を」とあります。したがって、空欄にあてはまる言葉は、「知的好奇心」ということになります。
- 問2 空欄にあてはまる言葉を選ぶ問題です。この空欄は、あとに「……が多いからだ」と続いています。したがって、空欄前の「本屋がどんどんつぶれている」理由について、空欄にあてはまるものが「多い」せいだと説明していることになります。「①段落の文脈をふまえた上で」とあるので、①段落の中で、「本屋がどんどんつぶれている」理由を確かめると、本を必要としない人の割合が必要とする人の割合より多いためと考えられます。えがこれに合っています。
- 問3 内容理解の問題です。「そう」という指示語の内容を確認すると、「雑誌は……安定した収益につながっていた」を指しています。「現在はそうではない」というのですから、「雑誌」が「安定した収益」につながっていないということだとわかります。また、③段落にはこれについて、「^{しょせき}書籍の売上減少とは比較にならないぐらい、^{ひかく}右肩が下がり続けている」とあり、雑誌の売上減少が書籍よりも深刻であるということが述べられています。えがこれらの内容にあてはまります。
- 問4 空欄にあてはまる語を本文中から探す問題です。空欄の前後を確認すると、「本屋が閉店してなくなると、……ことになる」なので、本屋の閉店によってどうなるかを、指定された④段落から探すことになります。すると、「大手版元の公式アカウントなんかが……コメントをして」「怒りが湧く」などのことも発生していますが、最も直接的な結果としては「本屋がなくなればなくなるほど、本を売る場所が減り、読者との出会いの場も消滅する」という部分があてはまります。このことはさらに「本屋の減少が最終的には大手版元にも……不利益となつて戻つてくる」ということにもつながりますが、これも閉店の直接的な結果というより、版元への影響という間接的な結果であり、二十四字という指定でぬき出すこともできないので、「本を売る場所が」が最初の七字になる部分が適切です。
- 問5 語句の本文中での意味を答える問題です。
- ④「^は思いを馳せる」は、前後から版元が本屋の閉店の原因や可能だったかもしれない対策を考えることを指しているので、「想像をめぐらせる」行動にあたり、えが適切です。「馳せる」には、「そこまで行き着かせる」という意味がありますが、あやうのように、自分のあやまちを認めたりそれを謝罪したりという意味で使われることはありません。

⑦「ハードルが高い」は、前の「たった一駅を移動するのが年配の人たちにとっては」という内容が移動の困難さを示しているので、いが適切です。「ハードル」とは障害のことを表しており、年配の人にとって、書店に行くために「一駅を移動する」ことは大きな障害となるという文脈になっています。

- 問6 空欄にあてはまる言葉を選ぶ問題です。空欄の前後を確認すると、「本屋の減少が……大手版元にも……不利益となって戻ってくる」とあり、版元の掛け率の悪さが本屋の閉店を招き、その結果が版元自身に悪影響として戻ることを示します。選択肢はいずれも「……のように」というたえの表現なので、「戻る」ことをたとえるのに適切なものを選ぶと、「ブーメラン」という投げたものが戻ってくるものにたとえている選択肢のうが適切です。あの「紙飛行機」は投げたものが戻らずに落ちることがほとんどであり、いの「片道切符」は戻らないものです。えの「打ち上げ花火」も何かが戻るわけではありません。
- 問7 空欄にあてはまる語を本文中から探す問題です。空欄の前後から、本屋の役割があてはまることがわかりますが、「本を売る以外」の役割であることに注意します。指定された⑦段落から本を売る以外の本屋の役割を探すと、「本を通じて、人と人とが出会う」「本の話を気軽にできる場」が見つかります。「仕事から離れた場所で本の話をするのは……なかなか機会がない」「街の本屋がそこに存在する意義はある」とあり、本屋が本を通じた人ととの出会いの場であり、気軽に本の話ができる場所であると述べています。Iは十字という指定であり、あとに「場所」が続くので、終わりの「場」を省いた「本の話を気軽にできる」、IIは十四字なので「本を通じて、人と人とが出会う」がそのままあてはまります。
- 問8 内容理解の問題です。「それ」が指す内容を確認すると、「さまざまな属性のお客さんが来店する」ことだとわかります。「それがいい」理由は、直後で「いろいろな特徴をもつお客様が出たり入ったりするところが本屋の魅力だと感じている」からだと述べられています。多様な客が集まることを良いこととして評価しているので、あが正解です。いは、「派手な原色」「淡い色」「薄い色」という「多様」の表現を服の色だと誤読しており、適切ではありません。うはアマゾンを知らない人に限定、えは読書欲の旺盛な年配者に限定していて、一部の例に過ぎないので、適切ではありません。
- 問9 内容理解の問題です。直後から述べられている方法をとらえます。「本以外の商品……を販売してもいい。お客様が求めるなら野菜でも果物でもベーグルでもドーナツでも何だって売ればいい」「大切なことは地域で生きる本好きの人たちのために、できるだけ長く本屋を続けること」とあり、客の需要に応じた商品を販売し、持続可能な経営を目指す方法であることがわかります。これにあてはまるのは、うです。あは、食料品を「書籍よりも多く」とは書かれていないので、適切ではありません。いは、情報発信についてはふれられていませんし、これに限定しているので、適切ではありません。えは、お客様との協力については述べられていましたが、それは「できるだけ長く本屋を続ける」ために「知恵を出し続けること」や、「街を生きる人たちのために」という「読書会」などの話であり、直接的な「売上の伸ばす」こととしては特に述べられていないので、適切ではありません。
- 問10 内容を理解し、設問の指示に従って記述する問題です。「お客様の力が発揮された例」なので、⑦段落の「ふたりの常連が立ち上げてくれた『葉々社ブッククラブ』」という「読書

会」のことになります。ただし、条件に「『運営』という言葉を必ず使って」とあるので、「運営は常連に任せている」という部分を利用して、「『葉々社ブッククラブ』という読書会を立ち上げた」という内容を「常連のお客さんが……運営していること。」などのようにまとめしていくとよいでしょう。

【お客様とは】ふたりの常連のお客さん

【力が発揮されたこととは】「葉々社ブッククラブ」という読書会を立ち上げたこと

【指定語句】運営

例：※常連のお客さんが、読書会の「葉々社ブッククラブ」を立ち上げて運営していること。

問 11 本文の内容を理解して、それぞれの文の正誤を考える問題です。①～④の文が、それぞれ本文中のどの段落の内容に対応しているかを探して考えていくとよいでしょう。①は、①段落の内容に対応しています。本文中には、「日常的に本を読む習慣のある人は百人中、二、三人」とあり、読書人口が増えているとは書かれていなため、①の「年々増えている」は合いません。②は、④段落後半の内容に合っています。筆者は大手版元の掛け率の悪さが本屋の経営に良くない影響を与える、店員の収入の少なさにつながると批判し、「掛け率を改善しないと」と述べ、改善を望んでいます。③は、⑤段落の最後の三つの文の内容に合っています。④は、⑧段落の「街に根付くということは……街を生きる人たちのために存在する」という内容と合っています。

二 文学的文章

問 1 登場人物の心情理解の問題です。「そんな」は前に書かれた「今までの十和だったら、なんのかんの理由をつけて学校を休もうとしただろう」を指します。さらに前からは、「学校を休もう」とするのは「時間はいくらあっても足りない」という気持ちからくることもわかります。学校に行っている時間がおしくて、その間に家で勉強したいのです。これにあてはまるのは、**あ**です。いは、学校で積極的に学ぼうとしているのですから休もうとする気持ちと合わせず、適切ではありません。**う**とえは、時間が足りないと感じる気持ちは述べられていますが、学校を休むという気持ちがないので、適切ではありません。

問 2 内容理解の問題です。十和が「ゾーン」のようなものに足を踏み入れて、勉強が「つらいと感じない」気持ちになったということを述べています。「ゾーン」については、注に「集中しきって感覚がとぎすまされた状態」とあることを確認しましょう。ここから、十和が目標を持つことによって集中力が高まり、勉強が苦にならない状態になったことがわかります。これにあてはまるのは、**い**です。**あ**は、「本来つらいはずの勉強があまりつらく感じなくなると、具体的な目標がみつかる」とありますが、本文では、目標を持つことによってゾーンに入っているのですから、理由と結果が逆になってしまっており、適切ではありません。**う**は、「学校がいきなり好きになれる」とは述べられていないので、適切ではありません。**え**は、本文の「いい子ちゃんを気取っているつもりはない」と合わないので、適切ではありません。

問 3 ぬけ落ちた文をどこに戻すかを選ぶ、文脈理解の問題です。ぬけ落ちた文が「それ」で始まっており、この「それ」が家族の協力的な態度につながっていることに注意しましょう。**【あ】**

と【い】の前後には、家族の協力的な態度が述べられていないので、適切ではありません。【う】は、「それ」が指すのが「花奈が身を乗り出して尋ねてくる」になり、それに応じて家族が協力的になるという内容とつながりません。【え】は、「それ」が指すのが十和が「さらに気合を入れて勉強に取り組んだ」になり、それに応じて家族が協力的になって、「とくに花奈は……」という花奈の協力的な態度につながっています。したがって、【え】が正解です。

- 問4 登場人物の心情理解の問題です。「口にした」とあるのですから、直後の十和の言った「いつか本当にパンクする日が来たら、そのときはまたみんなで支えてよ」という、受験で限界になったときに家族に求めることが、この「素直な気持ち」を表しています。さらに、この言葉に対して花奈が「支えるって何をしたらいいの?」と尋ねると、十和は「みんなで笑ってくれてたらいい。それが一番救われる」と言っています。これらのことから、えが正解です。
- 問5 内容理解の問題です。花奈は具体的にはどのようなことを提案したのかという問い合わせなので、実際に本文中で花奈が何をすると言ったかを確認すると、花奈が「お姉ちゃんの受験が終わるまではお母さんたちの部屋で寝る」と言った部分があてはまります。二十一字でぬき出すことと、空欄の直前に「十和の」とあることから、「お姉ちゃんの」は省くことになるので、そのあととの五字「受験が終わ」が正解です。
- 問6 登場人物の心情理解の問題です。直前で、十和が「花奈もきっと同じことを感じ取ったのだろう」と思っていることに着目しましょう。「同じこと」とは、その前にある「これから順調に成績が伸びていって……花奈と一緒に過ごせなくなるのだ。二人が同じ部屋で過ごせる時間はあとわずかしかない」という部分を指しています。これは、受験が成功することによって姉妹が離れて暮らすことになってしまうという悲しさを表現する部分です。したがって、うが正解です。あ、い、えは、いずれも十和の感じ取った思いにふれていないので、適切ではありません。
- 問7 理由をとらえる問題です。まず、直後で科目の変更についてくわしい内容が示された後、父が理由を説明しています。ここから、「国語ってセンスで解くものと思われすぎ」「星蘭は対策する価値のある問題を出してくる」「十和ちゃんの得点源になる」という父の判断によって、算数の時間を削って国語対策に時間を割いたことがわかります。これにあてはまるのは、いです。あは、算数が十和の得点源にできないとは書かれていないので、適切ではありません。うは、十和に国語のセンスがなくて国語はあきらめたということは書かれていません。また、本文の「対策する価値のある問題」という表現からは、センスではなく対策を立ててみがける思考力などで解くという意味が読み取れます、「対策さえすればセンスがなくても解けるレベル」というレベルの低い問題のように表現されているところからも、誤りです。えは、古いエッセイと詩は国語の対策の一つとは言えますが、「読んでおけば国語で点を取ることができる」や「苦手な算数に時間を割くよりも確実な得点源になる」が本文の内容とは合わず、適切ではありません。
- 問8 登場人物の心情理解の問題です。「あてはまらないもの」を選ぶことに注意しましょう。「はじめは……読みにくくて、頭に入ってこなかった」「三冊ほど読み切った頃から……苦じゃなくなった」「本を読むことが生活のリズムになっている」とあり、「好きかも」と思えるよ

うな気に入る作家も見つかったことも述べられています。したがって、あの「はじめのうちは……理解できなかった」、うの「本を読むための時間を確保することはできた」、えの「気に入るような文章を書く作家が見つかることがあった」は、それぞれ適切です。いの「いつまでたっても苦痛だった」が合わないので、いが正解です。

問9 語句の意味と登場人物の心情に関する問題です。十和が「この人の文章好きかも」と言い、父が「意外そうにしたが、すぐに合点がいったようにうなずいた」とあります。これは、父が十和の好みを理解し、納得した様子を指しますから、あが正解です。いの「あいづちを打つ」は、相手の話にあわせて受け答えをすることなので、「あいづちを打つようにうなずいた」というのは変な表現です。うは「非常に満足」とあり、十和の「この人の文章好きかも」という言葉が父にとって非常に喜ばしいものだったということを意味していますが、「合点」にそうした心情を示す意味がないことと、続く父の「うん、いいよね。僕も好きだよ」という言葉がそれほど強い感情を表現してはいないことから、適切ではありません。えの「半信半疑」は「合点」の意味とは逆なので、適切ではありません。

問10 登場人物の人物像の理解の問題です。十和の父は星蘭の受験情報を的確に提供し、国語対策や本の選定で協力します。また、十和の繊細さを案じ、将来について語る様子がえがかれます。これらをまとめると、受験で有能さを発揮しつつ、娘を案じる人物ということになるので、えが正解です。あは、「厳しく」は強調されていないので、適切ではありません。いは、「しぶしぶ受験には協力している」が、うは、「希望や期待を口に出す前に見抜いて」や「感覚的な助力」が本文の内容と合わないので、それ適切ではありません。

問11 内容理解の問題です。Cさんは、「勝手な理由で行かないことにした」のだから十和は素直に謝ったと話していますから、Xには十和が素直に謝ることにしたときの思いがあてはまります。この部分は本文では、「本当に申し訳なく思っているという旨を伝える」と表現されているので、Xには、「本当に申し訳なく思っている」があてはまります。Yは、十和が書いた文章のことを想像した父の言った言葉ですから、「十和ちゃんが書いた長い文章を、いつか僕は読んでみたいな」が適切で、十二字でぬき出すので、「いつか僕は読んでみたいな」が正解です。Zは、最後の一文からわかる十和の思いなので、「文章を書く仕事なんて考えたこともなかったけれど……温かい気持ちが胸の中に広がった」に着目します。自分の将来の仕事として「文章を書く仕事」のことを思い、「温かい気持ち」になっているので、自分の将来の仕事として「文章を書く仕事」にふれていないことから、あといは適切ではありません。えは、自分の将来の仕事として「文章を書く仕事」のことを考えていますが、「何が何でも……つかなければ」という義務的で強制を感じさせる表現は、「温かい気持ち」と合わないので、適切ではありません。

三 漢字・語句

問1 漢字の読み書きの問題です。①「外出して家にいないこと」という意味の「留守」です。②「身近に付きそつて守ること（人）」という意味の「護衛」です。③「もののまわりにからみつける」という意味の「巻（く）」です。「巻」の音読みは「カン」で、「巻末」「圧巻」などの熟語に用います。④「混在」は「いくつかのものがまぎりあっていること」と

いう意味です。 ⑤「汽笛」は「蒸気の力で音を鳴らす笛」という意味です。船などで合図として用いられます。 ⑥「額」の音読みは「ガク」で、「金額」などの熟語に用います。

- 問2 対義語の問題です。①「美点⇒欠点」という対義語です。「汚点」や「弱点」も対義的な言葉です。 ②「許可⇒禁止」という対義語です。 ③「勝利⇒敗北」という対義語です。 ④「需要⇒供給」という対義語です。

四 語句・言葉のきまり

- 問1 慣用句の知識に関する問題です。慣用句とは、二語以上の単語が結びつき、もとの単語の意味とはちがった意味を持つようになった言葉のことです。慣用句には、体の一部を使ったり、身近な動物になぞらえたりするものがたくさんあります。日常生活の中で見たり聞いたりした慣用句があったら、慣用句の本や辞書で意味を覚えましょう。 ①は、「手をこまねく」で、「何もしないでただ見ているだけであること」という意味です。「腕をこまねく」も同義の言葉です。「手」を使った慣用句には、他に「手を焼く」「手をぬく」「手を貸す」などもあります。 ②は、「二の足をふむ」で、「始めかけた物事をためらってしまうこと」という意味です。

- 問2 四字熟語の知識の問題です。 ①「昔のことをよく調べて、そこから現在に生かすことのできる知恵を得ること」という意味の「オンコチシン」は、「温故知新」と書きます。 ⑤「前置きをせずに、いきなり本題に入ること」という意味の「タントウチョクニュウ」は、「單刀直入」と書きます。したがって、①と⑤が誤った字をふくむので、正解はおです。

- 問3 「接続語（つなぎ言葉）」の問題です。どの「接続語（つなぎ言葉）」が適切かは、前後の関係から判断していきます。 ①「大会に向けて必死に練習した」ので、本来ならば、「勝てた」はずです。それに反して、「おしくもやぶれた」ので、い「しかし」があてはまります。 ②前の「今日は日曜だが家にいようと思う」ということの理由となる「かぜを引いたからだ」が、後に続いているので、え「なぜなら」があてはまります。 ③前の「私の父の兄」を、後で「おじ」と言いかえて説明し直しているので、う「つまり」があてはまります。 ④前の「白」と後の「薄茶色」のどちらかを選ぶので、お「あるいは」があてはまります。

- 問4 日本語全般に関する問題です。

① 「実を結ぶ」とは、「努力の結果が表れて成功する」という意味の慣用句です。したがって、「長年行ってきた活動がいよいよ実を結ぶ。」は、正しい日本語です。

② 「かもしれない」は絶対かどうかわからないときに使う表現なので、「絶対出場するかもしれない」と「絶対」といっしょに使うのは誤りです。

③ 「ぬかにくぎ」とは、「手ごたえがなく、効果が感じられないこと」という意味のことわざです。したがって、「何度も注意しても響かないならぬかにくぎだよ。」は正しい日本語です。

④ 「間髪をいれず」とは、「少しの間もあけずに、すぐに」という意味の慣用句です。したがって、「ゆっくりと間髪をいれずに」という表現は誤りです。なお、「間髪」の読み方を「かんぱつ」とまちがえないようにしましょう。

⑤ この文の主語は「学びは」、述語は「思った」です。「学びは、～思った。」という文では、主語と述語が対応しません。「学びは」を主語にするなら、「この本からの学びは、友情は

大切だということだ。」、また、「思った」を述語にするなら、「私は、この本からの学びは友情は大切だということだと思った。」というような文にする必要があります。